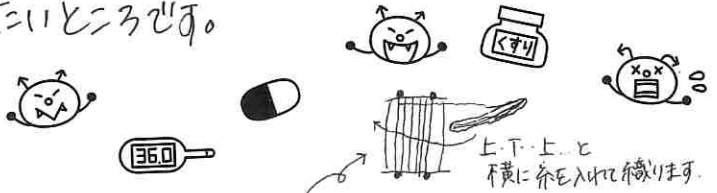




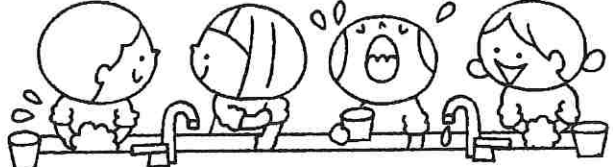
早いもので、園生活も残り少く月程となりました。1月になり、特に一段と寒くなってきてので、体調を崩さないよう、手洗いうがいや衣服の調節等気を付けて元気に過ごし、雪あそび等の行事も楽しめるようにしていきたいと存じます。

あそびのやりかたは...

自由あそびの時に、1人専らやりたい子達から取り組むには手重の糸編み籠を1車での糸編みもの。始めは「かからん」「からあつ」と立ち止まる事が多く、「先生さ」と口争はれる事が多かったのですが、進めしむうちにコツも掴みだして黙々とやるようになってきました。「ひきひし、もうやらん」(これはおぼろい)とろがゆりさんです。目に見えて出来が「見える事もやりごたえが」あり、嬉しいようで「こころまでできたわ」「(触れるらいい)いっしょにできた」と触りながら見せに来てくれます。そんな友達の様子を見て、やりたい子がまた増えてきました。でも自分で実際にやってみると力をいれすぎると糸が絡まってしまつたりと簡単には出来ないう事に気付く事も。そこを友達のやっている姿を見て、保育者がやり方を伝える中で乗り越え、手ごたえを感じ楽しさに気付いてほしいな、と思いつながらあそんでほしいと存じます。出来たものはマフラーにしようか...何にしようか考え中です。



あ! ポジティブな!!



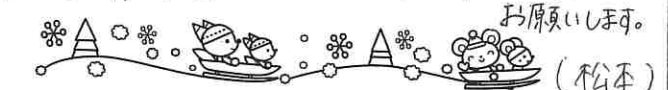
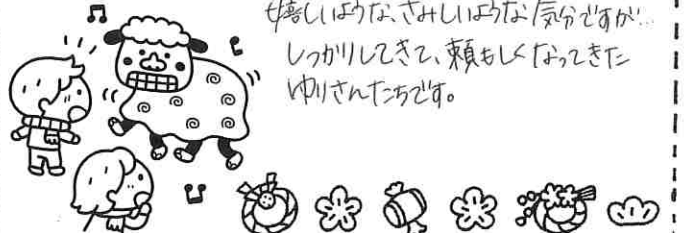
カンナさんからもらった糸編み籠が気に入ったゆりさんです。部屋から出る時は、「フケは! 先生、フケた」と言ったり、手を洗った後は水筒からハンカチを出して拭いたり嬉しそうにしています。糸編み籠を「どの場面では使うのか? (何に使う時?)」と考え身につけて、ティッシュやハンカチを出して使う中で「何で今これをやるのか?」に気付いてほしいと思います。何れも今でも月に何回か、「先生が何とやらんし、草がボンと来たわ」と言ってきたりと「寒いから長ズボンをはく」というような事を自分で考えるようになったり気付かぬ時があります。身の周りの事を自分で出来る力がついてきた子どもたちですが、この7月をきつたに、生活の色々な場面を自分で考え、気付くようになってほしいと思っております。

あそびの中心...

以前、ドッジボールをした時、誰かが当たったのかと見つけて、アッかんがワッパンドゥセフツたのに気付かず、外果にいらたり、「あつあつ」「あつあつ(いっしょ)」で言い合ったり、あそびが中断する...という事がありました。日々の保育者が間に入りながら、皆があそびの中心、同じチームの友達と一緒にはしゃいでい!という気持ちが出て楽しくなってきたので、言葉があつあつ、セーフティンかを見ることが、お互い声をかけ合っ楽しんでいます。ドッジボールという集団あそびを通じ、楽しさが分かると自分でやってみようとし、自分でやってみようとして、力を付けてきました。保育者が間に入ることも減り、

「のしめは雪あそび」

20日(土)の箱館山スキー場での雪あそびを楽しみにしていらした子どもたち。部屋に、積雪量を書いた紙を見ると「100cmの方がいいな」「同じくらい?」と皆ババをしたり雪あそびの絵本のページを見たり、興味津々で見つけています。雪はこの辺りでは触れる機会が少ないので、日常では体験できない経験をしてみたい思いがあり、雪の感触や本で動かす事を楽し、「いいね!」の気持ちで毎年ゆりさんで大切にしている行事です。これからゆりを半年に1回絵本を見たり自分達の手荷物準備をする中で、子ども達の期待を胸に押し付けて予定は、保護者の方も準備等ご協力をお願いします。



お原戻します。

(不公平)